

新たな価値と 働く場を創造する



ICT（情報通信技術）の導入など、新たな手法を取り入れた、次世代農林水産業により活力が生まれています。

01 海・山・大地の恵みを生かす



基本方策



SDGs



新しい農業のカタチへの挑戦

AI（人工知能）やICT等の先端技術を活用したスマート農業の推進や、付加価値をつけた販売展開の強化など、生産から販売までの様々な取組を関係者が一体となって進め、基幹産業である農業や、畜産業の持続的な発展をめざします。



GPSを利用した整地作業



ドローンを使った空中散布

農村環境を次世代へつなぐ

- 農業・農村の有する多面的機能の維持・保全を推進します。
- 区画整理によるほ場の大区画化や農業用排水施設の整備等を行うことにより、担い手への農地利用集積の促進と農作業の効率化を図ります。

「農林水産業」の魅力アップでやりたい職業へ

出雲の農林水産業の魅力を積極的に発信し、Uターン者を含め人材の掘り起こしに努めるとともに、新規就業を支援することで、担い手の確保・育成を進めます。

農福連携で相乗効果を

障がい者等の農業分野での活躍を促す農福連携の取組を支援し、農業分野の働き手の確保と障がい者等の就労機会の拡大に努めます。

循環型林業で新たな道を“伐り”拓く

「伐って、使って、植えて、育てる」循環型林業による市産材の生産拡大に努めます。



チェーンソー研修



しじみ漁

豊かな海の恵みのタスキをつなぐ

- 地域特性を生かした水産業の振興と資源維持・増大を図ります。
- 漁港長寿命化により、漁港の安全な利用を図ります。

02 “出雲”の「ブランド力」で価値を高める



基本方策



SDGs



出雲の“誇り”を全国・世界へ発信

出雲が誇る製品を出雲ブランド商品として認定し、全国・世界に発信することで、企業活動の活性化と出雲の認知度やイメージ向上など好循環の形成をめざします。

「おいしい出雲」でご縁をつなぐ

厳選された出雲推奨商品「おいしい出雲」について、周知拡大、普及促進を図り、出雲の認知度向上やイメージ向上に努めます。

海・山・大地の恵みに新たな発想を

出雲が誇る豊かな農林水産資源に新たな発想を加え、ブランド化を推進することで、特産品の生産拡大・販売を支援します。



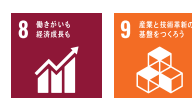
03 地場企業が地域を支える



基本方策



SDGs



ネットワークで中小・小規模企業の未来を創る

関係機関が連携して、中小企業・小規模企業の振興施策に取り組むことにより、本市経済の持続・発展につなげます。

創業支援で夢をかなえる

新規創業者の増加に向け、市内商工団体等と連携して、創業の夢をかなえる施策を展開し、地域経済活性化を図ります。

ご縁の力で国内外へビジネスチャンスを広大

取引先とのマッチング機会を提供・支援し、事業者の国内外に向けた販路拡大を図ります。



創業支援（相談窓口）



新規創業者のための創業塾



産学官金連携で新商品・新サービスを開発

島根大学医学部と進めてきた医工連携に加え、新たな産学官金（企業・大学・行政・金融）等の連携により、新商品・新サービスの開発を促進します。

“きらり”と光る事業者やノウハウを次世代につなぐ

出雲で培ってきた技術やノウハウを有する事業者を次世代へつなぐため、専門機関等と連携して円滑な事業承継を支援します。

04 多種多様な企業立地を



基本方策



SDGs



「出雲で働きたい」をかなえる

若者やUターン者の夢をかなえるため、企業誘致を強力に推進することで、産業基盤を強固にするとともに、様々な産業分野における多様な雇用の場を創出します。



「魅力度 No.1」の企業立地環境を

- 製造業を中心とした新たな企業用地として、斐川地域での新工業団地整備を進めるほか、企業の進出ニーズによって、新たな工業団地の整備も検討します。
- 日御碕サテライトオフィスなど企業の進出意欲を高める立地環境の整備を行いながら、若者の就業ニーズに合うソフト産業の一層の誘致を進めます。



斐川地域内工業団地群



日御碕サテライトオフィス(旧日御碕小学校)

05 「人財力(じんざいりょく)」で地域産業を“前へ”★

基本方策



SDGs



「企業とご縁」を結ぶ

出雲地区雇用推進協議会における高校生・大学生等の就職支援の取組を進めるとともに、Uターン者、外国人住民など幅広い就職支援に取り組みます。



学生と若手社員との交流会



学校と求人企業との情報交換会

「帰ってきたい」を全力サポート

県外での交流イベント、県外大学等との情報交換、いずも学生登録制度による情報発信に加え、学生就職支援窓口の開設、アプリを活用した情報発信・相談対応などを強化し、県外学生の地元就職を促進します。

「働き続けたい」を100%に

- 誰もが働きやすく、能力を活かし活躍できる職場づくりを支援し、企業の若手社員や中堅社員の定着率の向上を図ります。
- 求める人材の確保と就労機会の提供のため、企業と求職者のマッチングに取り組みます。



企業説明会

IT人材が育ち、集まるまちへ

デジタル社会の進展によるIT産業の成長を見据え、市内IT企業の人材確保と、IT人材の育成を支援します。



小中学生を対象としたプログラミング教室

出雲で進学夢をかなえる

新たな進学の選択肢を増やすため、本市での雇用につながる工科系大学をはじめとする高等教育機関の誘致をめざします。

ともに創る





ふるさと出雲の環境を守ると
ともに災害に備える

2030年の出雲の姿

出雲力で、生命や財産を脅かす大規模災害や感染症などへの備えが充実し、市民一人ひとりが、安全かつ安心して生活できる環境が整っています。

基盤整備により、防災・減災・縮災対策、消防・救急体制がさらに強化され、災害に強いまちづくりが進んでいます。

防犯への取組や交通安全対策など、市民の生活と暮らしの安全が確保され、安全かつ安心な社会の中で暮らしています。

脱炭素社会の実現に向け、次世代につなぐふるさと出雲の環境を守る仕組みがつくられています。



チャレンジ
46%

～CO₂の排出量削減(8年後)～

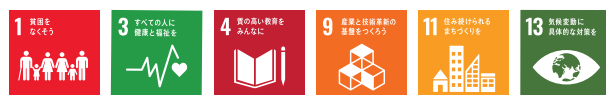
世界共通の課題である地球温暖化対策について、本市においても、2050年二酸化炭素(CO₂)排出実質ゼロをめざします。2030年までに、国が掲げる目標に準じてCO₂の排出量の削減46%以上(2013年比)の達成に向け、再生可能エネルギーの導入・利用促進、省エネルギーの推進など各種施策に取り組みます。(2019年時:2013年比10.1%減)

06 誰もが「安全・安心」に暮らせるまちに ★

基本方策



SDGs



災害から生命・財産を守る

- 様々な災害から市民の生命・財産を守るため、防災訓練などを通して「自助」「共助」「公助」のバランスのとれた防災体制を確立します。
- 原子力防災については、万が一の原子力災害時に円滑な住民避難を行うことができるよう広域避難計画の更なる実効性向上に努めます。

感染症から身を守る

新型コロナウイルス感染症の対応はもとより、鳥インフルエンザ及び未知の感染症などに備えるため、医療機関や関係機関と連携し、危機管理体制を拡充します。

交通事故・犯罪にあわないまちに

- 市民誰もが安心して過ごせるよう、交通事故防止対策及び防犯対策に取り組みます。
- 身近に起こりうる消費者被害にあわないために、利用しやすい消費相談窓口業務の充実に努めるとともに、出前講座等の啓発活動を推進します。

安全な「かわ・みち」づくり

- 自然災害から市民の生命や財産を守るため、治水・砂防事業や河川改修・整備などを推進し、安全な地域づくり・住環境づくりに取り組みます。
- 歩行者、自転車利用者の安全を確保するため、歩道などの地域生活の安全対策に努めます。



県河川塩冶赤川改修工事

「オール出雲」での空き家対策

空き家について、市民意識の醸成、啓発、情報発信に努めるとともに、民間活力を生かした相談体制の充実、利活用の促進を図り、官民一体となった「オール出雲」での空き家対策に取り組みます。

神話の地～出雲の守り人

消防・救急・救助力の充実強化を図るとともに、市民の防火・防災意識の向上等に努め、災害に強いまちづくりを推進します。



暮らしを守る消防職員

地域を守る消防団

消防団員の処遇改善を図り、団員の確保に努めます。また、若者や子どもたちとのふれあいを通して、地域を守る消防団の必要性などの理解醸成を進めます。

07 未来に向けた脱炭素社会へのチャレンジ

基本方策



SDGs



脱炭素のカギを握るのは再生可能エネルギー

- 脱炭素社会の実現に向けて、市民・事業者・行政が連携し、太陽光発電、風力発電などの再生可能エネルギーや蓄電池などの導入及び利用を促進します。また、次世代エネルギーである水素エネルギーの導入の可能性を探ります。
- 可燃ごみ処理施設「出雲エネルギーセンター」のバイオマス発電など地域の再生可能エネルギーを、地域新電力会社「いずも縁結び電力(株)」を通じて市内公共施設へ供給し、エネルギーの地産地消を進めます。

みんなで取り組むCO₂削減

- 市民・事業者・行政が連携し、一体となって省エネルギーなど二酸化炭素排出量削減に向けた取組を推進します。
- 豊富な森林資源を生かし、林業を円滑に進めるため、森林境界の明確化に努めます。

スリーアール 3Rで資源の循環を

持続可能な循環型社会の形成を推進するため、廃棄物の抑制(Reduce)、再利用(Reuse)、再生利用(Recycle)の取組を市民、事業者、行政の協働により推進します。

安全安心・快適な生活環境を次の世代へ

水環境、大気環境など、市民一人ひとりが健康で快適に暮らしていける生活環境づくりに向けた取組を進めます。

豊かな自然環境を次の世代へ

ラムサール条約に登録されている穴道湖など、豊かな自然に恵まれた出雲では、多くの希少な野生動植物が確認されています。これらの生息生育環境を保全するため、自然保護の取組を進めるとともに環境学習の充実を図ります。

トキが飛び交う「美しい出雲」を

出雲の自然を舞台に、トキの野生復帰をめざします。また、トキを環境に配慮したまちづくりのシンボルとし、持続可能な地域社会の形成に向けて取り組みます。



穴道湖一斉清掃



出雲で生まれたトキ





あらゆる縁を結び
交流を促進する



2030年の出雲の姿

出雲力で、あらゆる縁を結び、交流を促進することで、「縁結びのまち出雲」の魅力を再発見するとともに、市内外を問わず多くの人に知ってもらうことで、出雲に関わる人が増えています。

広域交通ネットワークの確保や街なみ環境を整備することで、交流の利便性が高まっています。

「縁結びのまち出雲」の魅力を発信し、滞在型観光を充実させるとともに、インバウンドの推進を図ることで、出雲を訪れる人が増えています。

移住・定住や結婚支援の取組により、人の縁を結び、出雲に関わる人が増えています。さらに、近隣自治体との広域連携や国際交流も進んでいます。

出雲が誇る歴史文化遺産を保存し活用することで、過去と現在の縁を結び、未来へつないでいます。

チャレンジ 1 億人

～交流人口(8年間)～

力強い地域経済の実現のため、出雲力の一つである、出雲の知名度を生かしたブランド力や、自然資源や独自の歴史・文化といった魅力を生かし、多くの人との縁を結び、交流を促進していきます。また、中海・宍道湖・大山圏域による広域連携等を通じて、交流を促進していきます。コロナ禍、またコロナ収束後において、今後8年間の交流人口^(※) 1億人(年平均1,250万人)をめざし各種取組を行います。(コロナ禍前の平成30年実績:1,162万人)

※交流人口:観光入込客数で数値化

08 期待（来たい）が膨らむ観光のまち出雲 ★

基本方策



SDGs



世界から「IZUMO」へ

IZUMOの魅力を海外へ発信し、IZUMOの認知度向上を図りながらインバウンド誘客につなげます。

デジタルプロモーションで出雲旅へいざなう

動画やSNSなどデジタルを活用した戦略的かつ効果的なプロモーションを展開し、出雲の認知度向上を図りながら国内外からの誘客を図ります。



インバウンド観光

「来て、観て、泊まって」出雲で満足

- 「縁結びの聖地」「神話のふるさと」として広く知られ、出雲大社をはじめ、重要文化財に指定された出雲日御碕灯台やジオパークの海岸線、歴史的建造物である須佐神社、伝統的な街なみが残る木綿街道、美しい夕日や海岸線を見ることができる多伎エリア、日本三美人の湯として知られる湯の川温泉、そして「地域が誇る観光スポット」など、出雲の魅力ある観光資源を効果的に組み合わせた取組を展開し、周遊滞在型観光につなげます。
- 国立公園をはじめとする自然・景観や歴史・文化などを生かした体験プログラムの造成を進めます。



須佐神社

広域観光で楽しむ

中海・宍道湖・大山圏域観光局や山陰インバウンド機構といった広域観光連携組織をはじめ、様々な団体との連携を深め、観光の広域化、多様化への対応を図ります。

日本遺産で魅力を発信

日本遺産「日が沈む聖地出雲」のストーリーや構成文化財を活用し、広く情報発信することで出雲の魅力ある観光地づくり、出雲のブランド力向上につなげます。



日御碕神社

「おもてなし」の環境を整える

観光施設の維持、機能向上や、宿泊機能の強化、街なみ環境整備をはじめとする観光客の受入環境の整備を図ります。



日御碕ビジターセンターでの観光案内

09 「住みたい」、「住み続けたい」の縁結び ★

基本方策



SDGs



ぴったりの支援で移住・定住の希望をかなえる（住む人も地域も win-winな移住・定住を）

出雲で就業、起業、夢の実現など出雲暮らしを考える県外の方を支援し、移住・定住を促進することで、地域活性化を図ります。

外国人住民が暮らしやすいまちづくり

出雲に住む外国人住民が、健康で安心して安全に暮らすことができるよう、暮らしや働くための環境づくり、子ども・若者支援、災害に備えるための取組などの充実を図ります。



いずもな暮らしHP

人と人との縁を結び「結婚したい」を後押し

- 結婚を望む方への支援として、縁結びプロジェクト（男女の出会いの場の創出、結婚支援）に取り組むとともに、結婚相談支援を行います。
- 若者が結婚、妊娠、出産、子育てへの理解を深め、希望する将来を描けるよう、必要な知識の習得や自身の将来設計について実践的に考える機会を設けます。

対話を通じたまちづくり

市民の意識や動向を的確に把握するため、対話と交流を重視したきめ細やかな広聴活動を展開し、市政への反映を図ります。

10 ヒト、モノ、コトを短時間でつなぐ ★

基本方策



SDGs



国内外を結ぶ出雲縁結び空港

- 出雲縁結び空港を発着する国内及び国際線の新規路線の開設により、新たなネットワークを構築するとともに、山陰のハブ空港となるよう更なる利用促進に努めます。
- 出雲縁結び空港と周辺地域の調和に配慮し、安心・安全な環境が保たれるよう取組を進めます。



出雲縁結び空港





線路がつなぐ旅と暮らし

本市と大都市圏とを結ぶ基幹的交通として、また地域住民の生活交通として重要な役割を果たすJRの利用促進を図るとともに、高速化やアクセス時間短縮等の利便性の向上に資するため新幹線開通への取組を進めます。

賑わう出雲河下港に

出雲河下港の沖防波堤完成により静穏度が向上し、安定利用が可能となる利点を生かし、広くポートセールスに取り組みます。

魅力ある「みち」づくりを PUSH する

高速道路ネットワークの早期構築に向け、「出雲・湖陵道路」、「湖陵・多伎道路」の整備促進とともに新たなスマートインターチェンジの設置をめざします。



山陰自動車道湖陵インターチェンジ（仮称）周辺
（提供・松江国道事務所）

8の字ルートの「みち」づくり

中海・宍道湖・大山圏域において、産業、観光などあらゆる分野のポテンシャルの発揮と災害時の避難や輸送経路の確保等を見据え、人流、物流の基盤となる高規格道路「境港出雲道路」（8の字ルート）の整備をめざします。

国際交流で「IZUMO人」を育てる

中高生の海外姉妹都市等との相互派遣を実施し、国際感覚を身につけ、国際化社会に対応できる人材の育成を進めます。

国内交流で出雲ファンを増やす

- 経済・文化・スポーツ・観光など幅広い分野での交流を創出することで、市民交流への拡大をめざします。
- 津山市及び諫早市との友好交流は、全国的にも数少ない三市による交流であるため、締結50周年に向けて交流拡大をめざします。



子ども達と国際交流員の交流

12 いにしへの「財（たから）」を守り、活かす

基本方策



SDGs

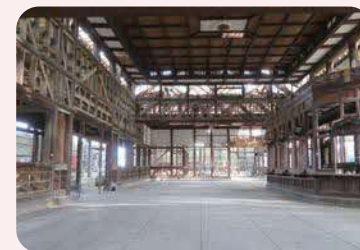


出雲のルーツを探り、学び伝える

滅失の危機にある古文書や民具、遺跡などの文化財調査を、関係機関・市民等と協力・連携して持続的に行います。また、2033年に迎える風土記編さん1300年に向けた取組として、風土記に関する調査研究を進めます。

出雲の財（たから）を未来へつなぐ

文化財建造物や考古資料等の指定文化財を良好に維持していくため、適切な時期に保存修理を行います。また、国史跡等については、保存活用計画の策定と史跡整備を進め、良好な保存活用を図ります。



旧大社駅保存修理事業

いにしへの出雲を魅せる

博物館展示や講座等の開催のほか、発掘調査成果を情報発信することで、文化財が持つ価値や魅力を伝えます。また、出雲弥生の森博物館を中心に、展示研究を進め、資料収集を強化し、博物館機能の充実を図ります。



出雲弥生の森博物館

過去と未来を結ぶ人を育てる

文化財の担い手、文化財関係団体等を支援・育成し連携して保存活用を推進するとともに、無形民俗文化財等の継承者育成のため、発表機会の提供等の支援を行います。また、歴史体験学習などのふるさと学習を推進します。

11 あのまち・このまち 出雲を結ぶ



基本方策



SDGs



広域連携でスケールメリットを最大限に発揮

- 中海・宍道湖・大山圏域を「あたかも一つのまち」として、観光、産業及び環境分野を柱とした各種事業に取り組むほか、交通ネットワークの整備・拡充を進め、住みたくなる圏域づくりをめざします。
- 近隣自治体との連携をより一層深め、相互の特徴や資源を有効活用することで、相乗効果を発揮する取組を展開します。

ジオパークが大地と人とのつながりを伝える

島根半島・宍道湖中海ジオパークの推進活動を通じて、『大地と人のつながり』を地域住民など多くの人に伝えることで、自分たちが暮らす地域に誇りを持ち、この地域を守っていくという意識を高めます。



小伊津海岸



菰の長浜